

青林寺御便殿

1909 年 9 月 27 日、皇太子嘉仁（1879～1926 年。1912～1926 年に大正天皇として在位）は、休憩・昼食・入浴のために、和倉温泉の優雅な休憩所に数時間立ち寄りました。その後、皇太子は、11 日間の北陸（福井・石川・富山県）の旅を続けました。皇太子は、数年間かけて、日本の全都道府県を公式訪問しました。皇太子が利用したこの休憩所（「御便殿」）は、その訪問を見越して、訪問の 2 年前に建設されはじめました。当時、約 10 万円の費用がかかりました。

この御便殿は、当初、七尾湾を見渡す山腹に建てられました。こういった休憩所は、皇室関係者が公務で田舎を旅する際に、数時間休憩するために建てられました。そのほとんどは、1 回限りの訪問のために建てられ、その後は解体されました。和倉温泉の御便殿の建物（休憩所と、廊下でつながった従者のための控えの間）は、当時の場所に残されていましたが、1976 年に、近くの複数の寺に移されました。

この御便殿には、畳敷きの部屋が 2 つあります。また、2 つの側面に縁側があります。床が高くなったところは、皇太子の私的な空間でした。この空間は、目の細かな竹のすだれによって直接は見えないようにできましたし、木の引き戸で完全に閉め切ることもできました。

この御便殿は、将来の天皇にふさわしいよう、最高の材料で建設されました。木材の多くは、長野県
の木曽谷にある御料林のヒノキです。主室には、独特な虎の縞模様（虎斑）があるトチノキ板で
きた、弓型折上げの格天井があります。木目の装飾的な模様は、木材の高い質と、大工の技術
を示しています。

当時の家具の一部は保存されています。この御便殿は、2017 年に有形文化財として登録された
ため、和倉温泉でも人気の観光地となりました。この寺は、庭のイルミネーションなど、季節の催しを
行っています。

青林寺は、毎日午前 9 時から正午までと、午後 1 時から午後 4 時まで開いています。（木曜日は
お休みです。）